

成人向

加賀守の巫女

しのぎメ鋭介

加賀守の巫女

しのぎ鋭介



成人向

加賀守の巫女

しのぎメ鋭介

MEGALITH PRODUCTION

加賀守の巫女

Shinogi/A-suke

成人向

この本には青少年の育成に相応しくない
内容や表現が使われている危険があります。

18歳未満の方は購入及び閲覧を禁じます。
また、掲載されている作品は全てフィクションです。



THAT WAS ALL
I HAD EVER
BEEN TOLD
OF THE TASK
THAT I WOULD
FACE TONIGHT.



TO CONSOLE
KAGACHI-
SAMA...
THAT IS THE
DUTY GIVEN
TO A KAGASHU
MIKO...



I HAD NO
IDEA HOW
TERRIFYING
MY TRIAL
WOULD BE...

THERE'S
NOTHING
FOR YOU
TO WORRY
ABOUT...



YOU
CAN LEAVE
EVERYTHING
TO HIM...



KAGASHI-
SAMA
IS VERY
SKILLED AT
PLEASING
WOMEN...

YOU
MUST GO
ALONE
FROM
HERE...

PLEASING
WOMEN...
AS I WAS THEN,
I COULDN'T
EVEN IMAGINE
WHAT SHE
MEANT BY THAT.



BE
STRONG
AND
CARRY
OUT YOUR
DUTY.

WOMEN BORN
AS KAGASHU
HAVE BEEN
PROTECTING
THE VILLAGE
THIS WAY
SINCE ANCIENT
TIMES...







Haaa...

Fwaaaaa!





LOST BETWEEN
PLEASURE AND
PAIN EVERY TIME
HE POURED HIS
HOT CUM INTO
ME, HE CONTIN-
UED TO TOY
WITH MY BODY.

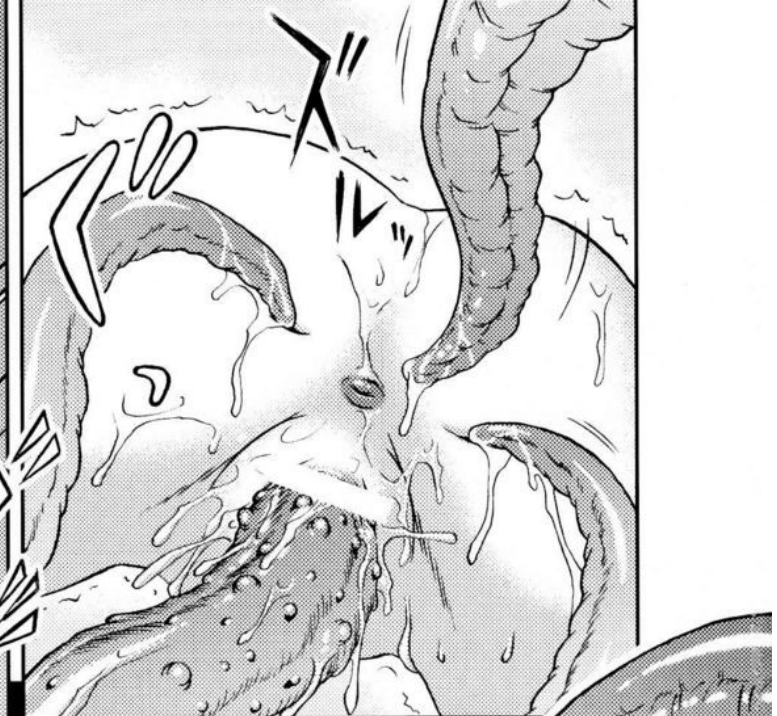
No...
No
more...!

No...
Again...?
Don't...!

HAVING NEVER
EVEN KNOWN
THE SWEET
LOVER'S TALK
BETWEEN MEN
AND WOMEN, I
WAS DROWNING
IN INHUMAN
PLEASURE.



Hya
aa!



ズ
グ

My
ass...
not...
not
there
...!

PLEASURE
SO GREAT
THAT IT
DROVE ME
MAD...

Ah
....

Ha
....

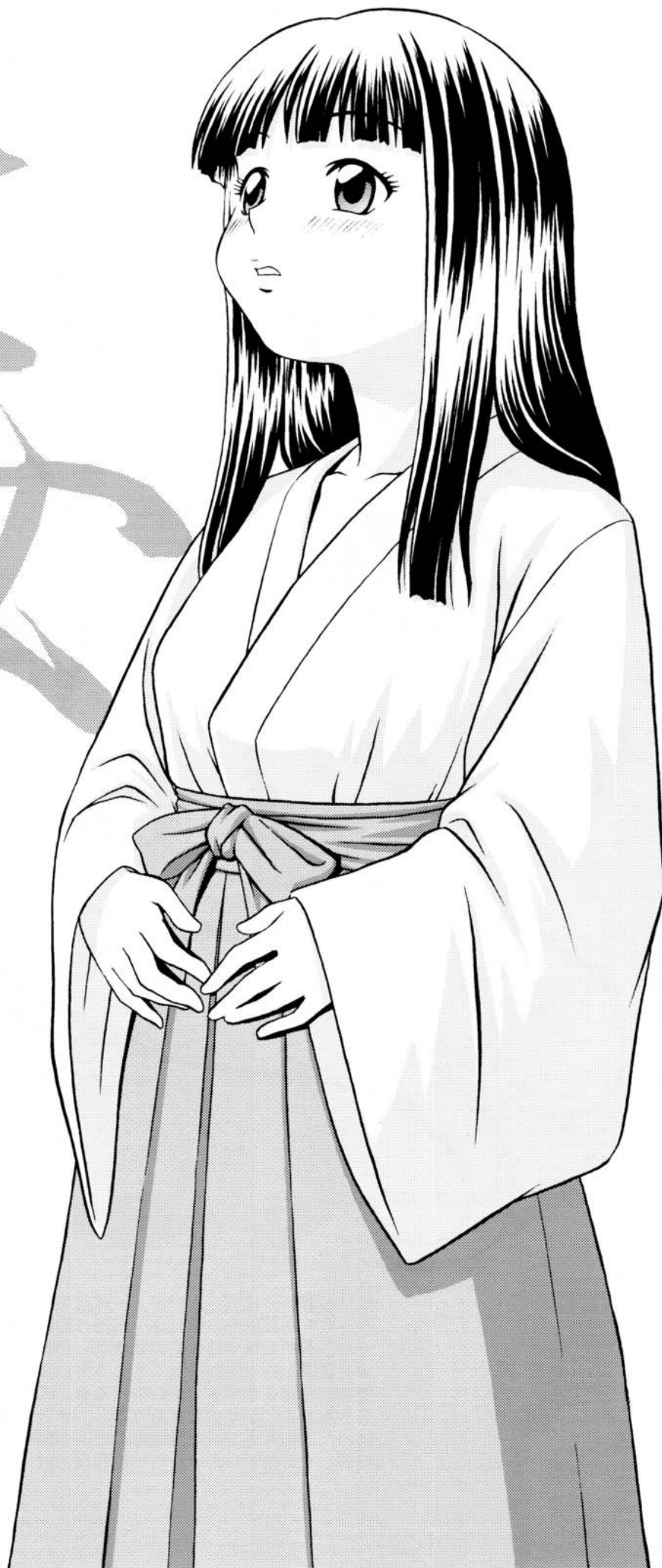
THROUGHOUT
THE NIGHT UNTIL
MORNING
KAGACHI-SAMA
NEVER GREW
TIRED, CONTINUING
TO TOY WITH ME.
HE MADE ME CUM
MORE TIMES THAN
I COULD COUNT.



EVEN IF IT
SHORTENS MY
LIFE, I HAVE NO
CHOICE BUT TO
FULFILL MY DUTY...
UNTIL MY DAUGHTER
INHERITS
THIS TASK...



巫女



タイトルに巫女と冠しているわりに巫女装束が本編に出てきませんが、巫女と言っても神社で働いてるわけではなく、儀式をこなすことで超常的な能力、いわゆる神通力を得て呪術的な役割を担い、里を守り治めている家系と考えていました。

また生贄のようなイメージなので、脱ぎやすい単なる白装束にしてみました。

フェティッシュな扱いで巫女装束を描くのも良いのですが、半脱ぎは描くのが面倒臭い所為か、ついつい全裸にしまいます。

いや、全裸が好きなんですけどね、自然の中とか屋外で全裸っていうその無防備さが。

しかし絵的には半脱ぎの方が映えるってのも最近実感しておりまして、今後はそれを踏まえていこうかなあとも考えています。

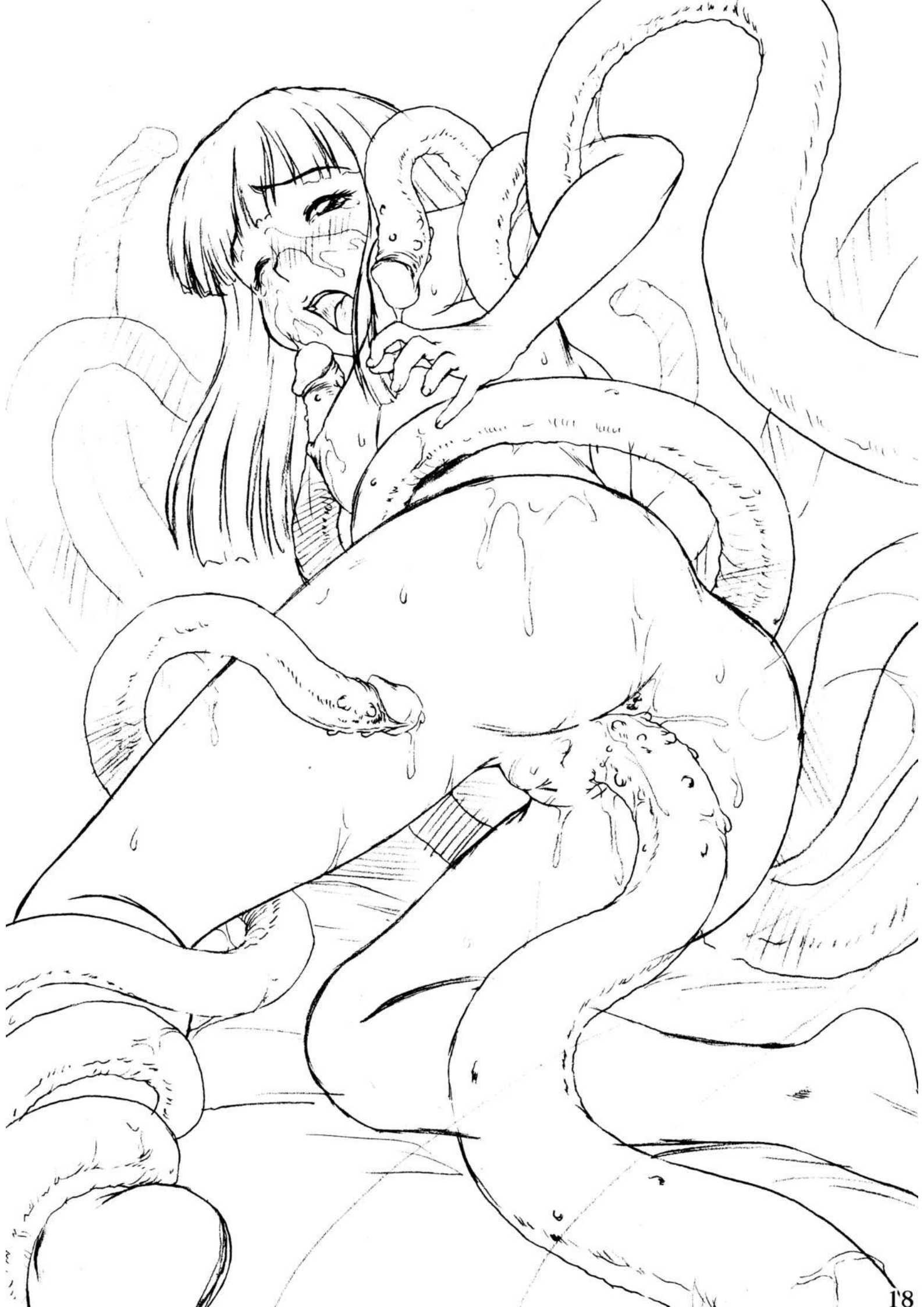
カガチ様と呼ばれる異界の存在。

神なのか妖怪なのか定かではないが、洞窟の中にある井戸から現れて、人間の女と交合する。井戸と言ってももともとは異界に繋がった、単なる穴だったが、祀る為に井戸風の祠を建てた。穴の先がどうなっているかは誰も知らず、入った者は一人として帰ってきていない。加賀守の家では代々このカガチ様と交わることを生まれてくる娘に課しているが、その儀式の詳細は祖母あるいは母から長女への口伝のみである。里のほとんどの者は洞窟の奥で何が行われているか知らず、一夜籠った後、戻ってきた娘が加賀守の当主の座を受け継ぐのが習わしとなっている。



妖怪の類いには違いないが、正体は不明。というよりそこまで深くは考えていない。ネーミングは学生の頃にネームだけ描いた妖怪退治漫画から。もともとは蛇を表す古語の一つ。その漫画では大蛇の妖怪だったが、にょろにょろしてるからまあ良いでしょう。触手は真っ当な生物として考えるといろいろ不都合が生じる。異次元的な存在、あるいは魔術的な存在とするのがいいだろう。人間と交わる理由も定かではないが、生贄がないと悪さをするとかでもなさそうだし、きっと女好きなんだと思われる。本当はもっと長いお話のために考えていた設定なので、今回はその部分利用とか煮詰めてない部分が多々あり。機会とやる気があったら中編程度で描いてみたいお話ではあります。









しのぎ：うーん、微妙だな今回は……。表紙がカラーになったのは満足だが。

鋭介：マンガとしては中途半端ですねえ。まあ前回もですが。

しのぎ：16P以上のモノを真面目に描こうとすると労力がね。久々に触手をペン入れしてみたが、大変だ！こりゃ商業誌じゃ描けんと思ったね。

鋭介：と言いますと？

しのぎ：下手に原稿料が出る分、労働と考えてしまうからねえ。そうなる割に合わないと思ってしまう。かといって同人はあんまり時間掛けられないから、多少マンガの内容の方を質を落とさざるを得ない。今回は冬のコピー本にやつつで描いたものにちょこっと描き足しなので、最初から中途半端になる運命だったわけだが。

鋭介：商業でも一部マニアに向けて一本くらい描いてみると、本買ってくれるかもしれないですよ？

しのぎ：単行本一冊につき一本混ぜておくとそれに釣られて買うって寸法か？いつもオレが騙されてるパターンだな。

鋭介：……。そ、そうですね、少しでも触手分が補給できると考えれば……。

しのぎ：そうなんだけどね。まあ触手は作画やら設定作りとかいろいろ面倒臭いんで、触手ばかり描けと言われると困ってしまうと言うのが正直なところ。でも一本くらいは商業で描いてみたいのも確か。まだ商業作家としては駆出しなで、しばらくマニアックなものは無理だと思うけどね。

鋭介：触手は商業では数字的に良くないみたいですね。

しのぎ：触手というかファンタジーの類いはどうもダメみたいねえ。広く人気を得るには現実的なシチュエーションとか、舞台装置？が必要みたいね。こんな娘とこんなことやあんなことしたいなあみたいなのファンタジーなんてばかばかしいとかいうのは論外として、それを受け入れられる素養が元からないとハマれないところがあるよね。例えば「エルフェロイ！」って言っても「エルフって？」って人にはウケるわけじゃないじゃん。じゃエルフって何だ？ってそのあらましから魅力までを説明するのにページを裂くのもエロマンガでは無理。まあオレがピンと来ないジャンルも山程あるから、冷静に考えれば触手にピンと来る人が少ないってのもわりかし不思議ではない。

鋭介：同人では趣味だからOK？

しのぎ：趣味だし、規模が全然違うよね。コミケなんかはコアな人たちがコアなものを求めてくるわけだし、数百単位で売れば御の字だ。数百人たつて、コミケ来場人数が30万オーバーと考えれば極一部だね。

鋭介：市場規模が違いますからねえ。

しのぎ：同人は商売ではなくあくまで描きたいものを描くってのが良いわけで、今後もその方針は変わらない。エロが減量されるけどアクションモノにもチャレンジしてみたいし、とりあえず次回はSFっぽい舞台で16Pくらいはあるちゃんとしたマンガってのを考えている。今回ののはもっと長いお話用に考えていた設定を部分利用して短く纏めたんで、説明は最小。

鋭介：エイリアンっぽいSFホラー系ですか。

しのぎ：エイリアンとかいろいろごちゃ混ぜつか、オレの好きな小説のバク（以下略）。まあこれからネタ詰めるんでまだわからないけど……。 （次項に続く）

加賀守の巫女

発行サークル：MEGALITH PRODUCTION（メガリス★プロダクション）

発行者：神内 真示（カミウチ シンジ）

問合せ先：〒510-8123 三重県三重郡川越町豊田一色1234

E-MAIL：rafter@kuwana.ne.jp

URL：http://rafter.sakura.ne.jp/

印刷所：サンライズパブリケーション（株）

〒531-0076 大阪市北区大淀中3-5-13

TEL 06-6451-4311/FAX 06-6451-4155

URL http://www.sunrisep.co.jp/

※無断での転載、複製を禁じます。

この本に関するお問い合わせは上記まで。ご意見、ご感想もお待ちしております。

しのぎ：ホントはトゥルーラブストーリー&キミキス本やりたい！
鋭介： $\Sigma(^{\circ} \text{Д}^{\circ})$



TRANSLATED BY: **Kizlan**

EDITED BY: **Lunatic**

Kagashu no Miko

